

令和6年度第4回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和6年8月24日（土）9時～10時30分、11時～12時30分の2回

テーマ：夏休みだ 夏の昆虫大集合！

場 所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター野外施設（いきもののにわ周辺）

講 師：久松正樹先生（ミュージアムパーク茨城県自然博物館 主査）

内 容：

夏休みで多くの昆虫が活動する時期に、子どもたちを中心に、霞ヶ浦環境科学センター野外施設で昆虫採集の体験をします。そして、身近なところでさまざまな昆虫が生活していることを学びます。さらに、小さな命の尊さや自然の大切さを考える機会とします。

参加者：43名（子ども23名、保護者20名）

1回目 30名（子ども17名、保護者13名）

2回目 13名（子ども6名、保護者7名）

担当職員：5名

パートナー：7名

結 果：

この観察会では、センター敷地内のいきもののにわ周辺で、捕虫網を使って昆虫を採集し観察しました。

採集の前に、講師の久松先生から、捕虫網による昆虫の捕り方、三角紙や毒ビンなど昆虫採集に使う用具の説明、ハチに刺されたときに使うポイズンリムーバーの使い方などを説明していただきました。

いよいよ採集と観察です。センターの敷地をほぼ一周しながら、昆虫のいそうな場所で実際に昆虫を探して観察・採集しました。観察・採集できた昆虫で久松先生に解説していただいた種類は、北池でアメンボ類、ショウジョウトンボ、エゾミソハギなどの花に集まるコハナバチ類、クヌギのラベルに集団でかくれていたコクワガタ、草地を住処にしているショウリョウバッタ、オンブバッタ、イナゴ類、クヌギの樹液に集まってきた特定外来生物指定種

のアカボシゴマダラ、大型のトンボのオニヤンマ、ギンヤンマ、エノキの近くを飛び回るタマムシなどです。また昆虫観察は、目で見るだけでなく、セミの鳴き声などを聞くなど、五感を使って行います。セミはツクツクボウシ、ミンミンゼミなどの声を聴くことができました。

野外での観察、採集を終わりにして、屋内に戻り、さらに詳しい観察を行いました。どんな昆虫が採集できたか、みんなで発表しました。そして、それぞれの昆虫について久松先生に解説していただきました。特に、大きな声で鳴くミンミンゼミはオスだけ、セミの前翅と後翅はフックでひっかけて一体子構造になることなどを教えていただきました。

最後に、今日観察できた項目について、昆虫ビンゴ（下に示す）を使ってゲーム感覚でまとめをしました。

1回目、2回目と暑い中、長時間にわたりご指導いただいた久松先生、本当にありがとうございました。

観察・採集できた主な昆虫を示します。

アメンボ類、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、アリ類、コハナバチ類、ヒメハラナガツチバチ、クロアナバチ、ウシアブ、イトトンボ類、オニヤンマ、ギンヤンマ、ウスバキトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、イナゴ類、コウロギ類、ショウリョウバッタ、オオカマキリ、ハラビロカマキリ、チャバネゴキブリ、コアオハナムグラ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、タマムシ、ヨツボシオオキスイ、アカボシゴマダラ、キタキチョウ、サトキマダラヒカゲ、シジミチョウ類、セセリチョウ類、ヒメジャノメなど。

昆虫ビンゴ

霞ヶ浦環境科学センター・バージョン

カードに書いてあることができれば、色をぬろう！ いくつビンゴができるかな？

名前：

モンシロチョウや シジミチョウなど 小さなチョウを見た	アリの背中を さわった	カブトムシや カナブンなど 甲虫を見た	虫の死骸を 見た	キリギリスや ゴオロギの 鳴き声をきいた
バッタや キリギリスを つかまえた	ギンヤンマなど 大きなトンボを見た	先生の名前を おぼえた	セミの鳴き声を きいた	イモムシやケムシなど 幼虫を見た
赤や茶色の チョウを見た	ハチを 見た	フリー	セミを見た	花に集まる虫を 見た
チョウを つかまえた	アゲハチョウなど 大きなチョウを見た	トンボを つかまえた	シオカラトンボの オスとメスを 見た	カに さされそうになった
樹液に集まる 昆虫を見た	池のアメンボを 見た	クモまたはクモの巣を 見た	セミの抜け殻を みつけた	樹液のにおいを かいた

Dr. Masaki Hisomatsu

第4回霞ヶ浦自然観察会



まず、採集用具の説明、写真はポイズンリムーバー



クヌギに集まる昆虫を観察



クヌギのラベルの裏にコクワガタがかかっていた



特定外来生物アカボシゴマダラを観察



タマムシが採集できた



多目的ホールに戻って採集した昆虫の発表会



セミの翅の不思議を観察する



最後に、昆虫ビンゴをやって、まとめとする